ボランティアの方へ

～ オリエンテーション用紙 ～

本日は、当事業所にボランティアに来てくださってありがとうございます。
利用者の方もボランティアの方も、気持ちよく過ごすことができるように、オリエンテーションをします。わからないことは何でも聞いてください。

グループホームとは

趣味や嗜好の共通した人たちが家族のように暮らす家を意味します。
介護保険によるグループホームは、認知症のために生活するうえで困りごとがある方々が、できることを出し合って共同生活をされています。ですから、私たちはここで暮らす高齢者の生活のお手伝いをしています。生活の主人公は高齢者ご本人だということを忘れないようにしましょう。

利用者の方と接するときの留意点

1. 必ずネームをつけてください。できれば大きな字で、読みがながあれば助かります。
2. 笑顔を忘れないようにしてください。第一印象が大切です。
3. ボランティア同士の私語は、利用者の方が疎外感を抱く原因になることもあります。できるだけ利用者の方とのコミュニケーションを大切にしてください。
4. 事故防止には細心の注意を払ってください。特に歩行や車椅子への移乗、食事摂取時、入浴や排泄の際に危険がひそんでいます。わからないことは一人で行わず、必ず近くのスタッフに声をかけてください。また何事も利用者の方のペースに合わせて援助してください。
5. 不安そうな表情をされている利用者の方には、「今日ボランティアに来た〇〇です」と何度でも自己紹介をしてください。
6. 利用者のことだけを尋ねるのではなく、ご自身のこと（出身地や仕事、子どもさんのことなど）も話してみてください。
7. 何かお手伝いする際は、必ず利用者の方の目を見てゆっくり「〇〇させてもらっていいですか」と伝えてから行ってください。
8. 利用者の言動に対して、叱ったり馬鹿にしたように笑ったりしないで下さい。
9. 言葉使いは丁寧に、幼児言葉を使わないで下さい。（〇〇さんと呼んでください）
10. 話しかけるときは、目の高さをできるだけ同じにして、少し低い声でゆっくりと簡単な言葉でお願いします。耳が遠い人かどうかを確かめてください。
11. ゆっくりした気持ちで、否定や評価をせずに話しを聴いてください。それまでの利用者の方の人生を尊重した関わりをお願いします。
12. 一人の利用者とだけではなく、他の利用者の方とも話してみてください。話さなくてもアイコンタクトや会釈だけでもしてください。

生活のお手伝いをするときの留意点

1. 基本原則は、２回見学、２回指導を受けながら実施した後、１人で実施するようにしてください。利用者の身体的・認知的な機能低下やできることについて説明を受けてから実践に臨んでください。
2. 動作を手伝うときは、急がずにまず利用者の方の行動を見守り、ペースを理解してください。
3. 衣類着脱のときは、関節に大きな負担がかからないように無理な姿勢を避けてください。
4. 車椅子への移乗や排泄介助での便器への移乗など、移動を伴う身体介護を行うときは、「ここをもってください。では立ちますよ。１、２の３」というように利用者の方に協力動作をしてもらえるように声を掛けてください。
5. 車椅子を押すときは、動く前に「前に動きますよ」と声を掛けてください。また急いでいるからといって早足にならず、ゆっくり歩くくらいのペースで進んでください。
6. 排泄介助や入浴介助などプライバシーに関わる介助は、まず利用者の方に了解を得てから行ってください。
7. 食事介助はむせこみで肺炎を起こす危険性が高いので、食事姿勢や一口の量、食事の形態などの説明を十分に受けてから行ってください。

スタッフとの連携の方法

1. 当日の担当者の名前をしっかり覚えてください。
2. 自分の居場所と、担当者の居場所をいつも明確にして、いつでも報告や相談ができるようにしてください。トイレ休憩などで退席するときは、「トイレに行ってきます」と声を掛けてください。
3. 利用者の方の特徴がわからずコミュニケーションに戸惑う場合は、スタッフに相談して間を取り持ってもらってください。お互いによく知らない関係のときは必ず戸惑いがあります。強引に仲良くしようと思ってもなかなかうまくいきません。
4. 危ないこと、どうしていいかわからない場面、思いがけないことなど何でもいいのでスタッフに報告してください。他者との関わりで利用者の方の新しい一面を発見できることもあります。また事故防止にもつながります。
5. 「もっとこんなことができる・してみたい」というような提案があったら遠慮なく伝えてください。利用者の方もスタッフもメリハリのある刺激的な生活を望んでいます。
6. ボランティアの約束の時間や日程、場所など担当者と十分打ち合わせをして、間違いのないようにしてください。
7. １日のボランティアが終了したら、わからなかったこと、楽しかったことなどその日のスタッフと共有してください。気になったことはその日のうちに解決しましょう。

その他

1. 事業所内の備品や設備、利用者の方の私物を大切に扱ってください。
2. 公私混同せず、利用者の方との距離をできるだけ保ってください。ボランティアの延長線上に「親しい友人」になれる日が来ると思いますが、それはお互いが心を許しあった関係です。一方的に親しみを押し付けては、利用者の方の負担になる場合があります。
3. 個人情報の守秘義務の約束書を記入してください。ボランティアが終了しても、利用者の方が亡くなってもこの約束書は有効です。

場所のオリエンテーション

1. 荷物をおく場所は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。
2. お手洗いの場所は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。
3. 手を洗う場所は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。
   ボランティア開始時と食事前、排泄後、作業後などにこまめに手を洗います。
4. 本日活動してもらう場所は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。この椅子を使ってください。隣に座っておられる方は利用者の＿＿＿＿＿＿＿＿さんです。

人のオリエンテーション

1. 本日の勤務者の＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。
   本日の仕事（概要）として、午前は＿＿＿＿＿で、午後から＿＿＿＿＿をします。
2. 本日のボランティア担当の＿＿＿＿＿＿＿＿です。
   本日の仕事の内容は＿＿＿＿＿ですので、いつでも声を掛けてください。
3. 利用者の＿＿＿＿＿＿＿さんです。お部屋はここです。いつも座る場所はここです。
4. 全利用者の一覧です。現役時代のお仕事や大切にしていること、主な症状などを記入していますから、参考にしてください。

氏名	年齢	出身地	現役時代の仕事	家族
病気と主な症状	不安や心配事	危険な場面	コミュニケーション	その他